

◎ 大学間連携これまでの経緯（太田）

Q. この議論は大学だけを想定しているのか？ それはなぜか？

A. 大学を想定。理由は、文科省がそのように設計した制度なので。

Q. 教育共同利用拠点の件は、認められても予算は出ず認定がもらえるだけのものなのでは？

A. そうかもしれない。だが認定されることが将来的に（予算獲得なども含め）重要になりそう。（予算獲得の努力のひとつ。）

Q. この件に手を挙げることのデメリットは？

A. 認定されなかった場合に潰される危険もありそう。慎重に進める必要あり。

◎ 大学間連携について（関口）

Q. この件がうまく進んだ場合、その後どういうタイムスケールで話が進むのか？

A. 秋ごろに文科省から財務省にどう出て行ったか分かり、採択されれば年末には金額が分かるかもしれない。採択された場合には、どう運営していくのか、委員会的なものを作って進めていく必要があろう。感触は、7月の参院選後に文科省から問い合わせが途絶えている…。

Q. 教育共同利用拠点の件との関係は？

A. それは全く別の話。

C. 今年度は特別経費を削減するのが政府方針。新規提案を出すのは非常に難しい状況のようだ。

Q. 望遠鏡を持っている大学の連携が議論されているが、そうでない大学が参加する可能性は？

A. 各大学望遠鏡の運営経費をまかなうという趣旨なので…。議論に加わるのは問題ないが、予算や人員の配分を求めるとなると何らかの貢献が必要になろう。